

来年4月江川地区市民農園開設…	1～2面
防犯組合年末一斉パトロール…	3面
平成20年を振り返って…	4～5面
15万人のひろば…	8～9面
おしらせ・12月の相談日…	12～13面
12月の休日当番医…	16面

12月1日から
参加者募集

江川地区「水田型市民農園」来年4月オープン

里山の自然を体感し

有機減農薬の米作りを

市では、大規模な谷津田空間を残し、貴重な動植物が多く息づく江川地区で、自然保護団体の協力もいただきながら、「自然環境保護対策基本計画」に沿って樹林地保全や減農薬による米作りに取り組み、ビオトープ(生物生息空間)の再生整備を進めています。いよいよ来年4月から、市民参加による「水田型市民農園」をオープンする予定で、12月1日から市民農園参加者の募集をスタートします。

市の最南部で利根運河に隣接し、大規模な谷津田空間を残す江川地区には、オオタカやホタルなど貴重な動植物も多く息づいています。

同地区は、農業の担い手の減少により休耕田が多く、また、近距離につくばエクスプレス「柏たなか駅」の建設計画もあったことから、かつては民間企業による住宅地整備が計画されていました。

しかし現在では、里山の自然を保全するため、自然保護団体と共同で、平成16年に「自然環境保護対策基本計画」を策定し、見直しを行いながら、里山の風景を保全するよう、約90ヘクタールのビオトープ(生物生息空間)の再生整備を進めています。

開発からビオトープ整備へ

市では、同計画に沿って、平成17年度から開発事業者が所有する農地以外の山林などの購入を始め、オオタカなどが生息する斜面林の保全に取り組んでいます。

また、18年には農業生産法人(株)野田自然共生ファームを設立して、開発事業者が仮登記していた農地の取得を始め、同時に、取得した農地の水路整備や復田作業などを進めてきました。

復田した田んぼの一部では、試験的に千葉県の普及推進品種米(2面につづく)



ビオトープ再生整備を進める江川地区で米作り

12月1日から

乳幼児医療費助成を

小学校就学前までに拡充

市では、「野田市エンゼルプラン」に基づき、休日保育や訪問型一時保育などをはじめ、24時間小児救急医療体制の確保など、総合的な子育て支援事業を積極的に進めていることが評価され、平成16年に国の「子育て支援総合推進モデル市町村」に指定されました。

さらには子育てしやすい街を目指すし、12月1日からは、皆さんからのご意見の多かった乳幼児医療費助成を拡充し、通院の助成対象を小学校就学前までに引き上げます。

料(市民税が非課税か均等割のみの世帯は、自己負担なし)となります。

小学校就学前のお子さんがいるにもかかわらず、受給券をお持ちでない方は、保健センターか関係保健センター、各出張所で申請手続きをしてください。

【問合せ】保健センター ☎7125-11188、関係保健センター ☎7198-5011